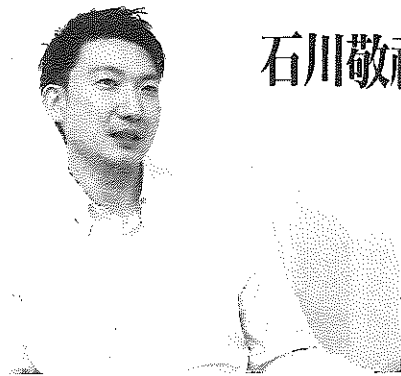


燃料油脂新聞

発行所
燃料油脂新聞社
 〒103-0026
 東京都中央区日本橋兜町8-8
 編集局東京03(6667)1031
 販売局東京03(6667)1042
 支局 札幌・仙台・関東・信越・
 東京・静岡・名古屋・大阪
 広島・四国・福岡
www.nenryo.co.jp
 ©燃料油脂新聞社2020

中外油化学工業

石川敬祐 新社長インタビュー



潤滑油専門メーカー、中外油化学工業の新社長に石川敬祐氏が就任した。1986年生まれの34歳。創業家の三代目として今年4月、石川裕二前社長（現会長）から経営を引き継いだ。中小企業の後継者難が深刻化する環境下、経営学を専攻していた学生時代から家業を継ぐことを意識していたという敬祐氏。後世に足跡を残した先人を敬う一方、いまの潤滑油業界には閉塞感があるとも語る。「人がすべて」。経営人材を育成し、堅い事業基盤のうえで社員を後押しできるグループ体制を築く姿を描く。次代を担う経営者に迫った。

— 舵取りを任せられた。最優先課題は

外部環境が大きく変化した。マーケット自体が消費化してきている。エコ失う可能性もある。カーの普及でエンジンオイルの消費量が減少しているが、将来、E自動車用のウエートがV（電気自動車）など極めて大きい。環境変化に次世代自動車普及に対応するためにはエンジンオイル自動車用に偏っている

「幸せな人生過ごす」
 大前提に社会へ貢献

まずリスク分散 潤滑油事業盤石の構え

ランスのよい生産体制といった強みがある。生産性の向上と原価の低減を徹底しており、数量もこなせるし、小回りも利く。こうした強みを守っていきたい。いまは「量」に走るのではなく、質を高めることが重要だと思っている。

— 将来像を描くと
 主軸の潤滑油事業を盤石にしたうえで、社員が新しい事業に挑戦したいといった場合に、しっかりと投資し支援できるように強い体制をつくりたい。実業をもとにした投資会社に近いイメージだ。すべては人材だと思っている。改革や新しい事業プランを同じ価値観で推進できる経営人材をしっかりと育

改革のカギは人材 “実業ともなう投資会社”を描く

石川 敬祐（いしかわ・けいすけ）氏
 1986年生まれ、34歳。2008年明治学院大学経済学部経営学科卒業。2012年中外油化学工業入社、2013年アドヴァンストケミカル取締役、2016年ライフファクトカンパニー代表取締役、2017年中外油化学工業常務取締役、2019年ACライフファクトカンパニー代表取締役、2020年中外油化学工業代表取締役社長就任。

— していきたい。すべてを
 まさまな改革をもっと進めたい。出遅れたい。5年後、10年後に弱い組織のまま手遅れに。なるのが怖い。だから早く決断してやるしかないと思っている。

— 課題は山積みだが、
 楽しんだり心から笑える時間が多い幸せな人生を過ごすという前提を忘れずに、自分の正義を貫き社会に貢献できる。投資案件、新事業、新規事業など、ささげばと思っている。